



きょうかしょ で さくしゃ ほか さくひん しょうかい よ
教科書に出てくる作者の他の作品の紹介です！ぜひ読んでみてください♪

ふしぎやさん

はやしばらたま え さく
林原玉枝 / 作

ふしぎやさんには、まだ誰も会ったことがない。木の実が甘く熟したところにやってくるという、ふしぎやさんに会おうと、子りすのキチは、森の奥へ出かけて…。



うもろきょうりゅう
羽毛恐竜

おおしま えいたろう さく
大島 英太郎 / 作

とおいとおいむかし、鳥は空飛ぶ恐竜だった。大むかしに独自の進化をとげた恐竜は、すでに絶滅した生き物だと思われていました。しかし近年では…。



おにたのぼうし

あまん きみこ / 作

せつぶん よる
節分の夜。どのうちからも豆をまく音がして、おにの子の『おにた』は、いくところがありません。角をかす古いむぎわらぼうしをかぶって、まちを歩いていきました。

森のお店屋さん

はやしばらたま え さく
林原玉枝 / 作

もり どうぶつ
森では動物たちがすてきなお店を開いています。「おとや」「ぼけっとや」「おやおやや」。他にもたくさん！いったいどんなお店なんでしょうね。



のはらうた

くどう なおこ し
工藤 直子 / 詩

くどうさんが野原に遊びに行くと、いろいろな詩人に会います。へびいちのすけとか、みのむしせつことか。かまきりりゅうじは、おれはかまきり、という詩を書きました。



おぼけのトケビはわすれんぼう

り むくおく ぶん
李 錦玉 / 文

ふる ちょうせんはんとう す
古くから朝鮮半島に住んでいるトケビの話。「ももたろう」を思わせる強い男の子の話、大同江のほとりに伝わる天女の話…。ふしぎでゆかいな九つのむかし話。

せなか町から、ずっと

さいとう りん ぶん
斉藤 倫 / 文

そなたは、『マンタ』と呼ばれるおおきなえいに似ているらしい。とにかくわしはおおきくて、わしにくらべたら、クジラはまるで小魚のようだ。



くるま ぞら
車のいろは空のいろ

あまん きみこ / 作

あなたは、まちで空色の車を見かけたことはありませんか？もし見かけたら、手をあげて乗り込んでみましょう！きっとわくわくするようなことが待っていますよ。



かみなりむすめ

さいとう りゅうすけ さく
斎藤 隆介 / 作

むら こ
村の子どもたちとあそびたくて、親にないしよで下界におりた、かみなりむすめの物語。やさしさにあふれた美しい切り絵の珠玉絵本。